

2020年7月27日 中東時事アップデート

アミール・ツアルファティ

- イスラエル・反キリストの登場 -

[YouTube:2020年7月27日中東時事アップデート](#)

アミール・ツアルファティです。今夜、皆さんと分かち合いができる事にとっても興奮しています。偉大なる王の都エルサレムから、今日は最初に、ここ数時間の出来事のアップデートから始めます。

信じられないかも知れませんが、イスラエルは、レバノンのヒズボラと、ほとんど戦争寸前でした。感謝な事に、今日の午後三時にヘルモン山の斜面で始まった紛争は、イスラエル側に人的被害はなく、ヒズボラの小グループのテロリストを全員殺害して終了しました。彼らは、ヘルモン山にあるイスラエル国防軍、IDFの前哨基地に潜入しようとしていました。

さて、先週の月曜日まで戻ってみましょう。ここから全ての事が始まりました。先週の月曜日、アップデートを終えた直後、2時間後に、イスラエルはダマスカス市の郊外にあるイランの標的に対して、非常に大規模な攻撃を行いました。ほとんどがダマスカスの国際空港です。そこには、複数のイランの司令部があり、高レベルのテクノロジーと武器がありました。イスラエルは複数の標的を破壊しました。イスラエルはF-16（戦闘機）をシリアに飛ばし、また、攻撃ヘリコプターのアパッチを投入し、イスラエルの領内から、ロケットミサイルを発射しました。これは、ここ数ヶ月の間に行われた中で、最も包括的な攻撃の一つで、イラン、シリア、周辺にいた全ての人にショックを与えました。その時点で、すでにイスラエルの攻撃だという事は明らかでした。ただ、イスラエルの攻撃に見えるものが、全てそうではありません。しかし、今回は明らかでした。なぜなら、イスラエル北部、ゴラン高原でも住民達が、その全ての音を聞いています。しかし翌日になって、レバノンのヒズボラが…。ヒズボラはレバノンのテロ組織で、1980年代に始まり、新しいイランのアヤトラ政権に支援されています。そのヒズボラが発表したのは、今回の攻撃で死亡した内の一人が、ヒズボラのテロリスト、操作員だったとの事。そして、ヒズボラは、自分の手下に対してある種の約束をしていました。もし、私が間違いでなければ、去年の事でしたが、今後、イスラエルの攻撃でヒズボラの“兵士”、または“戦士”が殺された時には、…彼らは、彼らをそう呼びます。その時には、彼らは反撃しなければならない。ですから、その直後、先週の月曜日から、もちろん火曜日も、今日に至るまで、イスラエルはヒズボラ側からの何らかの報復を予想していました。

さて、今日起こった事に入る前に、先週起こった、他の事を見ておきましょう。まず第一に、さらなるアメリカの攻撃です。信じられないかも知れませんが、アメリカはシリアとイラク地域において、非常に活動的です。イランが支援する民兵に対するアメリカの攻撃は、アブ・カマルの都市、イマーム・アリ基地において行われ、多くの死者を出しました。また別のアメリカの基地があるアルタンフという地域では、アメリカは、そこに基地を所有しており、その上空を飛行禁止区域として宣言しています。そして、いいですか、イランはアメリカを挑発しようとして、旅客機、ボーイング747、エアバス340、330を送り、テヘランからバイルートまで、ちょうど飛行禁止区域の上空を横切る形で飛ばし始めました。アメリカは、F15（戦闘機）をスクランブル発進させ、そして、この旅客機は、直ぐに高度を下げました。この事は、もちろん、バイルートでの着陸時に複数の乗客の負傷に繋がりました。イランはこれを挑発と呼び、イランは基本的に、アメリカの恥になる様な事件を起こそうとしています。

他に起こった出来事に移りましょう。イランで、奇妙な出来事が更に続いています。2日前に、他の爆発が起こりました。テヘラン市の郊外にある、イラン革命防衛隊のミサイル基地です。他の爆発、というより、一連の複数の爆発がケシム島で起こりました。もちろん、これら全ての事について、イランは本当に起

こった事を認めていません。イランはいつも、ただの熱だとか、ただの爆発、機能不全だったのだなどと言い、そこで本当に起こっている事を認めようとしません。

もう一つ、皆さんにお伝えしたい事は、覚えていますか？ここ数ヶ月…失礼、数週間の間、地中海でのトルコの侵略について、先週、お話ししましたが、トルコが、ギリシアの領海に侵入しました。それは、天然ガスと原油を掘削し始める為でした。さて、信じられないかも知れませんが、数日前に、ギリシア海軍はトルコと戦争を始めそうになりました。トルコの軍艦が、派遣された掘削船を護衛したからです。この事件は、ドイツのリーダー、首相のアンゲラ・メルケルがエルドアンに電話して、「ギリシャは本気だ。船を引き揚げなさい。」と言い、エルドアンが従った事で、終わりました。これで足りなければ、トルコは絶え間なく武器を輸送していて、対空システムをリビアに送っています。覚えていますか？それは、実際、アル=ワティヤ空軍基地に設置されました。信じられないかも知れませんが、2日前に航空機の空爆がありました。誰も攻撃側を特定しようとしませんが、フランス、ロシア、あるいはハフタル将軍のものでしょうか。そして、対空システムのバッテリー全てが破壊されました。今日、トルコが、この空軍基地の滑走路を延長していた事から、彼らがF-16（戦闘機）を持ち込んだ事に私たちは気づきました。

これでも足りなければ、レバノンで多くの事が起こっていて、リビアでも多くの事が起こっています。ハフタル将軍が、複数の戦車を空から攻撃した事が分かっています。シルトゥの都市に移動する途中の戦車でした。基本的に、中東では常に何かが起こっていて、実は、中東は、ここ数年の中で最も緊張が高まっている状況にあります。非常に驚くべき光景です。多くの西側の、アメリカ中のメディアは、これらの事を報道していません。しかし、非常に多くの、私が「戦争のうわさ」と呼ぶものが、この地域全体で現在進行中です。さて、先週月曜日、ヒズボラが兵士殺害に対する報復をしようとして始まった紛争は、結局、今日は、ヒズボラのグループがイスラエルの基地に潜入して、イスラエルの兵士を襲おうとし、そして、ロシア製のコルネット対戦車ミサイルを発射。イスラエルのメルカバ戦車を撃ちましたが、彼らは失敗し、我々は彼らを殺害しました。ヒズボラは、そのような紛争は起こっていないと主張しています。約一時間前に、ヒズボラが声明を発表して言いました。「イスラエルの報告は全て嘘で、我々は何もしていない。」



面白いのは、彼らは何もしていないと言うかも知れませんが、お見せしましょう。この動画の中で、イスラエルが先週殺害した人物の母親が、今日、ナスララが実行した事に感謝しています。ご覧ください。彼女は今話しています。彼女が言った事は、基本的に、「息子の復讐^{あだ}をしてくれた、ナスララに感謝します。今、仇^{あだ}が討たれた。」ですから、ヒズボラは、自分たちは何もしていないと言い、死んだ人物の母親は、ヒズボラのした事に感謝しますと言っています。これで、私たちの周囲の人間の信憑性^{しんぴょうせい}が分かりますね。

さて、核心に入りましょう。皆さん。話の核心は、私の後ろの都市の重要性について、もう少し話したいと思います。それと“緊迫性”。つまり、ある人物の登場が、どれほど近いのか。クリスチャンは、今日、彼を「反キリスト」と呼びますが、世界は、最も重要な人物、称賛される人物として、彼を愛します。私が、この事について話す事が大事だと思う理由は、まず第一に、私はエルサレムにいて、ここが、彼が最終的に本性を明らかにする場所です。イスラエルに敵対し、7年間の後半に、彼はこの場所で支配します。私が、この件について話そうと思った理由の一つは、非常に多くの人々が、アメリカ、そして世界中で、今、起こっている事を見て、自分たちは、すでに大患難時代のどこかにいると、間違っただけの理解をしているからです。そして、どこかの時点で、反キリストが強制するものを、私たちはすでに見ている、と。そして、私は、恐らくこれは、私たち全員がより理解を深めるとても良い機会だと思いました。聖書は、この特定の人物について何と言っているか。彼が、どこから来るのか。彼の登場の前の世界の雰囲気について。彼の登場の前に起こるべき事について。私たちが知っている終末の時間軸に沿って、私たちの立ち位置を再調整して行きます。これは、とても重要な事です。



まずは皆さんに、ある事実をご案内します。皆さん、昨日…、これを見て下さい。昨日、ドイツが世界で最も称賛される国として評価されました。世界が最も称賛する国です。ちょっと説明させてください。今年が初めてではありません。3年連続です。ドイツは44%、第2位のアメリカは、大きく離されて33%、そして中国、ロシアと続きます。これはギャロップ社の調査で、とても包括的なものです。もし皆さんが、「だから何なんだ？」と思われるなら、皆さん、ドイツ、そして特に西ヨーロッパ、フランスとドイツ、世界のこの地域に注目してください。なぜなら、皆さんに理解して頂きたいのは、この種の称賛には、それだけの意味があるからです。いいですか。この世界には、「国境をなくそう！」という霊があり、グローバリズムの霊、新世界秩序の霊があります。それは、長い間存在してきた霊です。そして、戦争であれ、パンデミックであれ、自然災害であれ、危機が起こるたびに、彼らが、自分たちのアジェンダを推進する為にそれらを利用するのを、私たちは見てきました。ジョージ・フロイドの死でさえ彼らは利用し、彼らのアジェンダを推進する為にずっと利用し続けています。皆さんが、次の事を理解しておくのは、とても重要です。ドイツは「多文化主義」「多国籍主義」、そして、ある種の「国境をなくそう」という思想の、まるで中枢のようになっています。

次に、皆さんの注意を、ある事実に向けてもらいたいと思います。今日、ドイツはEUの中で最も強力な国家です。アンゲラ・メルケルは、今日、ヨーロッパにおいて圧倒的に強力な指導者です。さて、彼女は、ドイツ国民からは称賛されていません。彼女にはカリスマ性がありません。彼女は、自国民の為の政治を行うことが出来ません。移民問題、暴力問題が横行しています。COVID-19への対応も良いものとは言えませんでしたが。しかし皆さんに言えるのは、そんな事を遥かに超えているのです。皆さんに知って頂きたいのは、現在、ヨーロッパはショック状態にあって、その大部分は、コロナウイルスに関連するものです。ある人たちは、これは本当のウイルスではないとか、これは、そこまで深刻なものではないと信じているのも知っています。しかしお伝えしておきます。これは実在し、非常に深刻であるだけでなく、世界中の多くの国を悩ませています。さて、致死率は思ったほど高くないかも知れません。それは同意します。これは、人工的なウイルスかも知れません。それも同意します。しかし、それは実在しています。そして沢山の国を悩ませ、経済を悩ませています。そして、人々は、それに対処しています。

さて、ヨーロッパでは、1957年にローマ条約が締結されました。覚えておいて下さい。ローマ条約とは、基本的に、「我々は、もはや異なる国家ではない。一緒に集まって、一つの圏域、国境が、もはや意味をなさない大きな地を作ろう。単一の通貨、単一の経済を作り、国境の検問も、もはやない。」そして1980年代に、ルクセンブルクのシェンゲンという都市で、彼らは条約に署名しました。シェンゲン協定です。基本的に、20のヨーロッパ諸国から国境を廃して結合するもので、文字どおり、書類なしでそれらの国々を、行き来できるようにします。それらの国々は、移動の際一つの存在と見なされますから。それが、どうなったと思いますか？COVID-19が起こって、そして、突然シェンゲン協定は全く意味がなくなり、突然、イタリア、スペイン、ポルトガル、その他、国々が自国の国境内に閉じこもるようになりました。コロナウイルスは、とても多くの国を直撃し、非常に酷かったので、彼らは、他のヨーロッパ諸国から感染者を輸入したくなかったのです。それでもご覧の通り、上手くいきませんでした。思い出して下さい。左翼は自分たちの事を「革新主義者」と呼んでいます。つまり、彼らは自分の事を前進派だと考え、他の人の事を知識が遅れていて時代錯誤、いまだに時代遅れで、古臭いと見ています。彼らは、自分の事をそう呼んでいます。そして、7月11日のある時点で、彼らは、COVID-19は終わった。もう何もする必要はないと決定、彼らは禁止を解除し、誰もが移動を始めました。どうなったと思いますか？イタリアで、スペインで、そして他の国々で、COVID-19の症例が、再び増え始めました。そして、興味深い事が起こり、2日半前、イギリスが突然発表しました。「スペインから、イギリスに戻る人は全て、再度、隔離を義務付ける。」もちろん、隔離している余裕のない人が全員、マヨルカ空港や、あちらの島々に群がって、基本的に、彼らは、機能していない事を理解しました。全くうまくいっていない。これらの話題に触れる理由は何でしょうか。長期にわたってヨーロッパは、自分たちは、単なる国の複合体でなく、何か優れたものであるというイメージを作り出そうとしてきました。そして、長期にわたり、ヨーロッパ、特にドイツ、そしてフランスやベルギー等の地域は、この地域全体には、非常にオカルト的なものがあり、また、バビロニアの文化やバビロニアの考え方に妙に

惹きつけられて来ました。EUが、フランスのストラスブルグに議会の議事堂を建てた時、EUは、基本的に、バベルの塔を模した建物を建てています。皆さんは、そんな事はないだろうと言うかも知れません。しかし、これをご覧ください。ええと、ここにあると思ったんですが、ちょっと待ってください。ともかく、基本的には…、オランダの画家ピーテル・ブリューゲルが描いたバベルの塔が、まさに、このEU議事堂の形でした。さらに、ヨーロッパはバベルの塔に似ている事を誇り、そして、「一つの国、多くの言語」と言いま



EUが向かう方向性を、物語っています。



ベルリンに置かれています。



これはレプリカではなく、実物です。

繰り返しますが、EUは多文化主義的な側面を誇っているのです。どこからでも来る事ができ、神は一つではなく、宗教は一つではなく、唯一のものなど何もない。我々は、みんな一つだ。もちろん、ブリュッセルのEU理事会の議事堂には、建物の外に獣に乗った女の像があって、EUが向かう方向性を物語っています。ところで、それでも十分でなければ、皆さんに見て頂きたいのですが、ベルリンには、1930年以来、サタンの王座として知られるゼウスの祭壇の実物がベルリンに置かれています。これは、トルコのペルガモンの古代都市から持ち込まれました。ですから、これがベルリンにある事は明らかです。これでも足りないなら、バビロニアのイシュタル門が、同じ博物館にあります。これはレプリカではなく、実物です。

聞いて下さい。ついてきて下さい。ここで、お伝えしたい事がありますから。明らかに、世界で起こっている事と並行して、つまり多くの混乱や、多くの欺き、多くの失望、不安などがありますが、見ての通り、ヨーロッパは、すでに長期間にわたって、何か、完全に異質なものを産み出す準備を進めてきました。皆さんに知って頂きたいのですが、旧約聖書の預言者ダニエルが、すでに反キリストの興隆（勢いが盛んになること）の明確な幻を見ていたという事を、多くの方が忘れていています。ダニエル書7章に、すでに、彼が4つの獣を見たと書いています。そして、それぞれの獣は、異なる国、異なる帝国のシンボルで、最後の獣が一番恐ろしく、それがローマのシンボルでした。最初の獣はバビロンのシンボルで、次がメド・ペルシャ、そしてギリシア、そして最後がローマです。そして、聖書は告げています。

その最後の獣には、十本の角があり、大きなことを語る口があった。(ダニエル書7:20参照)

ですから、その人物の興隆と、ローマ帝国の本来の地域とに直接の繋がりが分かる事が分かります。もう一つ言えるのは、ダニエルの70週目の幻を見ると、「その六十二週の後にはメシヤは断たれるでしょう。ただし自分のためにではありません。」(ダニエル9:26口語訳1955)

見て下さい。ダニエルは、非常に驚くべきイスラエルの未来と、そして私の後ろにある都、エルサレムの未来についての預言を受けたのです。興味深いのは、7週と62週、69週の後、紀元前445年にアルタシャスタ王がエルサレムを再建せよと布告した時から、聖書には正確に69週が経過するとメシヤが来て、そして断たれ、それは、ご自分のためではない、とあります。そして民が…、これを見て下さい、「やがて来たるべき君主の民が」(ダニエル9:26)これは、君主であるメシヤではありません。これは君主で、指導者、大きな帝国の強力な指導者です。彼らは何をやるのでしょうか？「町と聖所を破壊する。」(ダニエル9:26)ローマ帝国は町と聖所を、紀元70年に破壊しました。そして、これを見て下さい。

「その終りまで戦いが続いて、荒廃が定められている。」(ダニエル9:26)

そして何が起こるか見て下さい。ローマ帝国について語りながら、ダニエルは、今度は最後の週の幻を受けています。これは明らかに、最初の69週の続きではありません。そうでなければ、彼は70週を、まとめて一緒に語ったでしょうから。しかし、そうではなく、彼は言いました。最初に69週があり、それから、最後の週がある。そして、ダニエルは続けます。「彼は一週の間、多くの者と固い契約を結び、」(ダニエル

9:27)同じ地域から新しい指導者が現れ、彼が固い平和の契約を結ぶ。あるいは、一週の間、多くの者と契約を結ぶのです。それが7年間です。しかし週の半ばに、彼は、「いけにえとささげ物をやめさせる。」(ダニエル9:27)「週の半ばにやめさせる」のです。ですから、その時、イスラエルの民は約束の地に戻っており、神殿が再建されている事が分かります。これは、紀元70年に神殿が破壊された後の事です。いけにえとささげ物が、すでに再開されているとは、どういう事か？なぜなら、これは未来の事だからです。「荒らす忌むべき者が翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。」(ダニエル9:27)

ですから皆さん、このように、その最後の第四の獣、最も恐ろしい獣から、その人物が現れます。また、その同じ9章で、同じ帝国から、未来において誰かが登場するのが分かります。これで、それはアッシリアや他の国ではないと確証しました。なぜなら、アッシリアはセンナケリブ王と関係していて、その人物はバビ



ロニアには現れません。彼が現れるのは、メシアが入城して死んだ後、最初の君主が来て、神殿を破壊した同じ地域です。興味深いのは、西ヨーロッパと古代ローマ帝国は、現代では変化しています。聖書でダニエル書が語っています。10本の角があり、その内、3本が根から引き抜かれ、そして、その人物がそこから来る。皆さん、これを見て下さい。西ヨーロッパには古代に10の部族があり、その内、3つはもう存在しません。

- ・西ゴートは、現在のスペインです。
- ・アングロ・サクソンは、現在のイギリス、
- ・フランクはフランスで、
- ・アラマンニはドイツ、
- ・ブルグントはスイス、
- ・ロンバルドはイタリア、
- ・スエビはポルトガルです。

しかし、他に3部族があり、もはや言及される事もなく、存在もしていません。彼らは断たれました。

ヘルール、東ゴート、ヴァンダルは、もはや存在しません。

ですから、私は心から信じています。つまり、間違いなく、私たちが話しているのは、西ヨーロッパから興隆してくる指導者、言うなら、高い可能性で今日のドイツ・フランスの地域です。先ほど見たように、今でさえドイツは称賛されています。しかし、世界は、現在とは少し変わっていくでしょう。それが書かれているのが、ヨハネの黙示録13章です。では、一緒に読みましょう。繰り返しますが、多くの方がこれらを混同しています。聖書にはこうあります。思い出して下さい。反キリストは、ヨハネの黙示録の前に、複数個所で複数回、述べられています。ペテロの手紙にありますし、テサロニケ人への手紙にもあります。しかし、見て下さい。ヨハネの黙示録の13章以前にも記述があります。11章や12章にも。しかし、見て下さい。11章には二人の証人についてと、底知れぬ所から上がってくる獣が彼らを殺す場面が書かれており、それが反キリストです。12章でも、同様に、同じ獣が言及されています。しかし、これを見て下さい。皆さん。13章で…。これを理解するのは重要です。ここが分かれば、皆さん、理解出来るでしょうから。彼は、今、生きているかも知れませんが、彼が所定の立場に着き、支配するまで、まだ、しばらくの期間があります。なぜなら、いくつかの事が起こる必要があります。これを見て下さい。「そして、彼は海べの砂の上に立った。」「海べの砂の上に立った。また私は見た。」「海から一匹の獣が上がって来た。」「これには十本の角と、七つの頭とがあった。」

ダニエル書7章を、思い出して下さい。

「その角には十の冠があり、その頭には神をけがす名があった。」

思い出して下さい。これを見て下さい。

「私の見たその獣は、ひょうに似ており、足は熊の足のようで、口はししの口のものであった。」

(黙示録13:2)

ダニエル書で見た4頭の獣は全て、まるで、その1つがそれら全てを飲み込み、それらの特徴を共有しているかのようです。そして見て下さい。こう書かれています。

「竜は（サタン）この獣に、自分の力と位と大きな権威を与えた。」（黙示録13:2）

なぜ、これがそんなに重要なのか。なぜなら、今現在、一部の人が示唆^{しき}しています。「新しい王国、あるいは、新しい同盟国の連合があり、選挙が行われる。」

反キリストは、人々から選ばれるわけではありません。彼の権威、地位、そして力は、竜から直接与えられません。

そして、「その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。」

そして見て下さい。「そこで、全地は驚いて、その獣に従い、」（黙示録13:3）

1人でもそんな指導者が、現在、どこかにいたら教えてください。世界中が驚き、従う様な指導者。まだいませんね。見て下さい。「そして、竜を拝んだ。」（黙示録13:4）

イエスが、山上の垂訓で言われた事を思い出して下さい。「主に仕え、良い事を行いなさい。」そして、

「人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」

（マタイ5:16）

人は、自分が崇^{あが}める者を反映するのです。これを見て下さい。

「そして、竜を拝んだ。獣に権威を与えたのが、竜だからである。また、彼らは獣をも拝んで、だれがこの獣に比べられよう。だれがこれと戦うことができよう。」と言った。（黙示録13:4）

世界は、一人の指導者を称賛し、世界は一人の指導者を崇めるようになり、そして、世界は、完全にその嘘に引き渡されるでしょう。次を見て下さい。

「この獣は、傲慢なことを言い、けがしごとを言う口を与えられ、四十二か月間活動する権威を与えられた。」（黙示録13:5）

ですから、彼の最初の登場は四十二か月間で、その間は、ただ冒^{ぼうとくでき}瀆的な事を言います。基本的に、彼は神に関するあらゆる事を憎むのです。なぜなら、彼は自分が神だと考えており、自分を拝ませたいから。けがし事とは、神に異論を言い、神に敵対する、それ以外の何物でもありません。見て下さい。その四十二か月間の後で、

「そこで、彼はその口を開いて、神に対するけがしごとを言い始めた。すなわち、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちをののしった。」（黙示録13:6）

興味深くないですか？思い出して下さい。彼は自分を現すことが出来ません。自分を示すことが出来ません。来て、舞台に入ることが出来ません。テサロニケ人への手紙第2章にあります。引き止める者が取り除かれるまで、引き止めているのです。信者は取り除かれ、携^{たづな}拳されないとはいけません。彼は何に対して異論を言いますか？誰に対して？神に対して、神の幕屋に、そして“天に住む者たち”にです。面白くないですか？私たちは天にいて、そして彼は私たちの陰口をたたくのです。絶対に、なんとか説明しようと、いろんな憶測が飛び交うはずですよ。なんで私たちがいなくなったのか、なんで私たちが取り除かれたのか。

「彼はまた、聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され」（黙示録13:7）

ところで、勘違いしてはいけません。間違いなく、ここに聖徒たちがいます。聖徒は、ギリシア語で「ハギオス」と言いますが、「聖なる者」と、また「取り分けられた者」という両方の意味があります。私は、た

くさんの注釈が、こんな風に言うのを聞いて来ました。「これは、もちろん大患難時代の聖徒だろう。新たに信者になった人たちです。」しかし、その直後に信者になるのは、圧倒的に、誰でしょう。11章を読むと分かるでしょう。四十二ヶ月の後に、覚えていますか？何が起こったかといえば、2人の証人がよみがえり、天に上った後、沢山の人が驚き、神を崇めました。そして、恐らく信じるのでしょう。という事で、

「彼は、また聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され、また、あらゆる部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。地に住む者で、ほふられた子羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼を拝むようになる。」 (黙示録13:7-8)

ですから、信じない者は全て…。イエスの御名を信じる者は、全て子羊の書に記されていますから。信じない者は、全て、彼を拝みます。

「耳のある者は聞きなさい。とりこになるべき者は、とりこにされて行く。剣で殺す者は、自分も剣で殺されなければならない。ここに聖徒の忍耐と信仰がある。」 (黙示録13:9-10)

ですから、大患難時代の聖徒たちは、恐ろしい時を通らないといけません。彼は、聖徒たちに打ち勝つのです。これを見て下さい。「また、私は見た。もう一匹の…」これを見て下さい。つまり、海から上って来る政治的指導者がいます。つまり、彼は新しい存在です。彼は、以前はいなかったのです。彼は、私たちが知っている人物ではありません。彼は、私たちが、以前に見た事のある者ではありません。しかし、次に、別の獣が地から上ってきます。彼は、ここにいました。彼は、少し違う帽子を被っています。これが2番目の獣です。反キリストではありません。にせ預言者です。そして…「それには小羊のような二本の角があり」(黙示録13:11) 面白くないですか？“子羊”のように、彼は、“汚れがなく”、彼は、何か、“宗教的なもの”に所属していて、そして、「竜のようにものを言った。」(黙示録13:11)

ですから、彼は、一方で子羊のような姿をしており、それでいて、竜のようにものを言うのです。彼は、あらゆる面で悪魔的です。

「この獣は、最初の獣が持っているすべての権威をその獣の前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷の治った最初の獣を拝ませた。また、人々の前で、火を天から地に降らせるような大きなしるしを行なった。また、あの獣の前でおこなう事を許されたしるしをもって、地上に住む人々を惑わし、剣の傷を受けながらも、なお生き返ったあの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。」 (黙示録13:12-15)

誰でも…いいですか？拝まない者は、全て殺されました。

「また、小さい者にも、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、全ての人々に (中略) 刻印を受けさせた。」 (黙示録13:6)

これを見て下さい。これは大事です。刻印を、どこに？これはワクチンではありません。これはパンデミックの治療ではありません。この刻印の場所は、右の手か額です。なぜ、私たちは単純なワクチンが…ところで、私は、人が受けたくないものを受けるべきだとは言いません。しかし、ワクチンは絶対に刻印ではありません。これが獣の刻印です。獣の刻印は、にせ預言者が、人々に、獣の像を拝ませるために導入するのです。

さて、彼は、今、この世にいますでしょうか？見て下さい。これは、はるか大患難時代の後半です。3年半、もし患難時代が明日始まるとしたら、刻印までに、まだ3年半の時間があります。これは、どんな病気とも関係ありません。どんなパンデミックとも、関係ありません。健康に関する、どんな事とも関係ありません。

「また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもできないようにした。ここに知恵がある。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。その数字は人間をさしているからである。その数字は六百六十六である。」（黙示録13:17-18）

いくらでも続けられますが、鍵となる点は、この全最中、ヨーロッパはどこにありますか？アメリカは？イスラエルは、どこにありますか？御覧のように、ヨハネの黙示録のほとんどは、イスラエルについてです。この事を理解する必要があります。そして、イスラエルは欺かれます。悪魔の策略を理解している人たちには、テサロニケ人への手紙第二にあるように、反キリストが自分を神だと宣言する時、まさに、12章に書かれている通り、メシアを産んだ民のために、神が荒野に場所を用意されます。どれくらいの期間？その、3年半の間、千二百六十日です。アメリカについてはどうでしょう。ヨーロッパは？

では、まず最初に、実際に起こるべき事は何でしょう。想像の中で、「私たちは、すでに大患難時代にいる」と言う前に、あるいは、「獣の刻印は、何かのワクチンで、明日にでも導入される」などと言う前に、皆さん、特定の事が先に起こる必要があるのです。第一に、戦争が起こります。その時、イスラム過激派が敗北し、従って、神殿の丘に神殿を再建することが可能になります。第2に、その戦争は平和につながります。偽の平和です。アメリカの大統領によって導入される平和ではありません。ヨーロッパの指導者によって導入される平和です。なぜなら、聖書の預言には、もはやアメリカは存在しません。この時点で…皆さん、理解しないとイケません。イスラエルは…戦争の後です。そしてその戦争で、アメリカは全く助けません。アメリカは、どこにいるのでしょうか？そして、神殿が建てられます。この神殿に関するものをお見せしましょう。信じられないかも知れませんが、



これをご覧ください。「世界平和を望みますか？」2014年の事です。エルサレムの神殿研究所は言いました。「もし、世界平和を望むなら、第三神殿を建てなければならない」神殿研究所は、キャンペーンを始めて、資金を集めました。何のために？草案のためです。もしそれが建てば…彼らによれば、「普遍的な調和が到来する」興味深くないですか？この同じ言葉で、反キリストが調和と平和を導入し、それが、第三神殿の建設としっかり結びついているのです。もし、私が冗談を言っていると思うなら、皆さん、彼らは、すでにエルサレムの第三神殿の計画をリークしています。彼らは精神異常者か、過激派か、夢想家だと思うかも知れませんが、彼らは、すでにエルサレム神殿の仮想の実物大模型を持っていて、実際に、そこで見ることが出来ます。彼らは、ただそれを待ち望んでいて、国中を回って、もう、それがあると教えています。皆さんに、ご理解頂きたいのは、これは事実です。これは、そこにあります。神殿が存在しなければなりません。世界的な憎しみが、すでに取り

去られている全ての信者と、そして、大患難時代を通じて信者になった者に対して向けられます。ですから、起こるべき事が幾つかあります。私たちは思い出す必要があります。これで終わります。私たちは、反キリストを待つ必要はありません。私たちは、イエス・キリストを待つ必要があります。反キリストに時間を与える必要はありません。彼が何をし、何を導入し、何を与えるか、私たちは、そうした事を考える必要はありません。私たちは、備える必要があります。私たちは、福音を分かち合う必要があります。私たちは、人々にイエスを通じた救いを伝える必要があります。イエスのみ、です。そして、私たちは準備が出来ていなければなりません。聖書のヘブル人への手紙9章には、こうあります。

「二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。」（ヘブル9:28）

携挙です。ですから、皆さんを励ましたいと思います。いつも、反キリストに関連する事を見つめるのではなく、いつも、いつも、いつも、イエス・キリストに関する事を見つめましょう。

お父様、あなたの御言葉、約束、信じる者への偉大な御計画に感謝します。大患難時代は、イスラエルにとってひどい時になると知っています。大患難時代を通じて、この民は救いを享受します。お父様、私たちが神の怒りに合うよう運命づけられていない事に感謝します。私たちを、やがて来る試練の時から守って下さることに感謝します。お父様、感謝します。携挙を記述した箇所には、私たちはまず、大患難時代を通らないといけない、と書かれている場所はありません。事実、大患難時代の最中に信じる者は、みんな殺される、と聞きました。そしてパウロは言いました。「生き残っている私たちが引き上げられる」私たちに、大患難は関係ないからです。お父様、感謝します。この邪悪な人物、不法の者が現れるためには、引き止める者が、まず取り除かれなければなりません。私たちは、彼を見ない事に感謝します。私たちは、彼を見たくありません。しかし、世界が彼を見るためには、世界は、まず私たちにバイバイを言わないといけない事に、感謝します。今夜、この偉大なる王の都エルサレムからあなたの御名を祝福します。そして、彼の御名によって祈ります。アーメン。

私たちを、ソーシャルメディアでフォローしてください。実際、ここで毎週送信されるニュースレターを、ご登録いただけます。www.beholdisrael.org です。インスタグラム、フェイスブック、ツイッター、YouTube ビホールド・イスラエルです。皆さんの声を聞かせて下さい。ご視聴頂いて有難うございます。神のご加護がありますように。そして、エルサレムから、シャローム。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>
ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.08.10 (Mon)